



# 光 和

12月号  
練馬区立光和小学校  
平成30年11月29日  
校長 城崎 真



## 光り輝き、調和のとれた 光和小学校音楽会



合奏の練習風景

音楽会スローガン「夢を奏でる声と楽器の音楽会」のもと、各学年、合唱・合奏ともに熱の入った練習が繰り広げられています。発表順に本番の内容をご紹介しますと、1年生は、「おんがくでなかよし」（合唱奏）として、わらべうた・バンブーダンス・歌いながらの手話等、アラカルトの発表をします。東アジアの民族色豊かな歌と身体表現をかわいい1年生がどのように見せてくれるのか、楽しみです。3年生は「この山光る」（二部合唱）。「えんやらのもの木」（楽器を伴う輪唱）。「ありがとうの花」（二部合唱）。「ミツキー

マウスマーチ」（合奏）。

合奏は各奏者がそれぞれ活躍できるオリジナルの楽譜を用意しました。春に初めて手にしたリコーダーをはじめ、楽器演奏の基礎的な技量が高まっています。まとまりのある合奏を目指します。

5年生は「威風堂々第一番」（リコーダー奏）。「ドラえもん」（二部合唱）。「パラダイス ハズノボーダー」（合奏）を発表。「ドラえもん」はかなり入り組んだ作りのアレンジにご注目を。合奏では、ソリストイックな響きをお楽しみください。

合唱団は「地球星歌」（笑顔のために）（二部合唱）。「ほらね、」（三部合唱）を10月に迎えた新入団員と共に送りします。優しさに包まれた暖かい響きにご注目ください。2年生は「序曲と音楽物語 スイミー」（楽器と合唱）。序曲は、今回の舞台のために書かれた新曲

です。「スイミー」と、言葉で楽器の音で表現するという新たな表現方法を楽しみながら積極的に合奏練習に取り組んでいます。4年生は「サウンド・オブ・ミュージック」（合唱奏）。「エーデルワイス」（合唱とリコーダー奏）。「シンブル・プラン」（二部合唱）。「ハピネス」（合奏）。

極めつきのミュージカルの名曲を、4年生ならではの素敵なハーモニーでお聴きください。英語の歌にも挑戦しています。6年生は「変わらないも」（二部合唱）。「風になりました」（合唱と合奏）。「陸王 インターマ」（合奏）を発表します。大編成で、体育館いっぱい響かせる迫力のある合奏、気持ちのこもった歌、6年間の学習の成果を余すところなく舞台で発表すべく、練習にラストスパートをかけています。

本番を控え、練習へのモチベーションがかなり高まっている各学年。光和の学舎に、『光』り輝き、調『和』のとれたハーモニーがもうすぐ響きます。  
(文責 音楽専科 佐々木一昌)

## 四季折々

校長 城崎 真

「大和言葉」

道徳授業地区公開講座へたくさんのご参観ありがとうございました。また、二校時に行われた講演会もたくさんのご参加を頂き盛会であったと副校長先生から報告をもらっています。講師の福田先生からは「さすが、光和小の保護者は関心が高いですね。」とお言葉を頂きました。

話はがらっと変わって、先日カラオケを楽しんだ際、卒業式シーズンにはまだ早かったのですが、海援隊が歌った『贈る言葉』を選曲しました。「暮れなずむ町の 光と影の中 去りゆくあなたへ 贈る言葉：」今までにこの歌を何回、何十回歌ってきたことか。

実はこの歌には、ある忘れられない思い出があります。新規採用教員として勤めた中央区立明石小学校、6年生担任として初めて経験した謝恩会。保護者の出し物がこの歌でした。保護者に誘われるまま舞台上に上り歌い出すと、座って聴いていた子供たちが全員立ち上がり歌い始めたのです、何の打合せもしていないのに。涙で歌えなかったことを思い出します。

本題に戻ります。『暮れなずむ』あれ？という意味なのだろう。こんなに深い歌なのに、歌詞すらしっかりと認識できていないことに気が付き調べてみました。それは、大和言葉と呼ばれ、日本語を構成する要素で、漢語、外来語に対し、奈良時代以前からあった日本固有の言葉「和語」のこととなりました。和語なら5年生で教

えていたはずなのに、暮れなずむまでは、意識できていませんでした。意味は、「日が暮れかけてから暗くなるまでの間の様子」、「日が暮れそうでも暮れないでいる状態」とありました。

他にどんな大和言葉があるのか調べてみました。「たおやか」、「お膝送り」、「いさない」、「押取り刀」、「愛でる」、「臍を噛む」、「心取ずかしい」、「面映ゆい」、…。使えていなかったり、こんな字を書くのかと驚いてみたりといういろいろな発見がありました。  
(二〇一八年十二月)